

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

肢体不自由教育における牽引力のある学校としての「組織力・専門性・実践力」を継承し、特別支援教育の推進を図るために、「障がいのある子どもの自立と社会参加をめざしたキャリア教育の展開」を行うとともに、「センター的機能の発揮」に努める。その際、本校の校訓でもある「明るく 正しく たくましく」を旨として、以下の3点を重点とした学校経営に取り組む。

- 1 障がいのある児童生徒一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けて必要なキャリア教育の充実に努め、個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実に努める。
- 2 安心・安全な学校づくりと子どもの障がいの状況に応じた支援の方策を図るために教員の専門性向上と授業改善の工夫を図る。
- 3 開かれた学校・地域との連携を重視し、福祉・医療・労働等の関係機関との連携を促進し、支援教育の更なる充実に努める。

2. 中期的目標

1. 障がいのある児童生徒一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けて必要なキャリア教育の充実に努め、個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実に努める。
 - (1) 「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の充実・活用に向けた取り組みを各学部で推進し、保護者との連携促進と移行を意図したシステムを構築する。
 - (2) 「環境教育」を教育課程に位置付け、各学部での取り組みを行う。その際、校内に作成したビオトープを活用して環境教育を推進する。「ホタルプロジェクト」のカワナ養殖や伝統野菜である「田辺大根・天王寺蕪」等の栽培・収穫・給食での活用等の取組も継続する。
 - (3) 卒業後の進路について、社会参加ができるような進路保障をする。
 - (1)については、検証結果を踏まえ、課題の整理をし具体的な取り組みを推進する。
 - (2)のビオトープについては、H29年度までに定着させる。
 - (3)関係機関をはじめ社会と生徒とのつながりを創出し、つながる場や機会のない生徒を0にする。
- 2 安心・安全な学校づくりを推進する。
 - (1) 定期的安全点検と同時に、緊急時を想定したマニュアルの再確認とシミュレーションを行う。防災対応についてPTA、地域と連携し取り組む。子どもの安全確保や人権尊重に基づいた取り組み月間等を設け、教職員への人権意識の涵養に努める。
 - (2) 重度重複障がい・医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師などの連携を図り、保健室がキーステーションとなってマニュアルの再確認と点検を行い研修の充実に努める。
 - (3) 増加する知的障がいの生徒の多様化や在籍数の増加に対応できる安全対策を進める。
 - (4) 健康教育を推進する

* (1) (2) (3)は、毎年成果の検証を行う。

(4)は、児童生徒への実践のまとめと保護者へ情報提供を推進する。
- 3 堺・泉北地域における支援教育の中心的役割を担い、センター的機能の発揮に努める。そのためには、肢体不自由や知的障がい、自閉症等の障がい特性等の理解や指導技能の専門性を磨き、各教員一人ひとり各々の授業力を高めるための取り組みを行う。その際、以下の内容について、具体的な取組計画を行う。
 - (1) 校内の支援として、自活専任の活用と校内研修や授業実践の公開を行うなど積極的に障がいに関すること、授業の研究・研修の企画を行う。その支援として、大学や医療専門職など、外部のスーパーバイザーを招聘して適切な指導援助を受ける環境を醸成する。

*外部人材の招聘 (①大学の研究者 10 回程度、②医師、医療関係者 5 回程度、③園芸専門員他 10 回程度、学生支援員 随時)
 - (2) 校外支援として、堺・泉北地域の支援教育の中心的役割を担い、教育委員会・学校との調整を行い、リーディングスタッフ・コーディネーターを中心に巡回相談や教育相談を展開し、地域の学校園に対しての支援方策を展開する。

*教育委員会と支援方法等の確認を行い、H28年度までに支援方法等の確立を図る。
 - (3) 授業力の向上や授業改善として、ICT等の機器を活用した教材の導入等の工夫を図る。タブレット端末機を計画的に導入し、どの授業でも活用できる環境を整える。

*ICT等の機器を利用した実践をまとめたものを有効利用できる具体的事例の検討を進める。
- 4 機能的な組織づくりを推進する。
 - (1) 分掌間の連携や分掌内の係分担の連携を進める。
 - (2) 首席会、運営調整会議、運営委員会、職員会議といった流れで課題解決に向けての検討を進める。
 - (3) 教職員の資質向上に努めるなど人材の育成を進める。

*機能的な組織づくりをめざし、毎年検証を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析、学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月 実施]	学校協議会からの意見
<p>○概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月下旬に保護者、中学部・高等部一部生徒、教職員を対象に実施した。回収率は保護者63.％、生徒71.8％、教職員100％であった。 ・保護者を対象としたアンケート 教育内容に関する項目ではすべて肯定的評価が80％を超え、90％を超えるものも6項目あった。しかし、施設設備や不審者対応については否定的評価が30％を超え、課題となっている。 各項目とも昨年度と大きな差異は見られなかった。 アンケート様式を若干変更し、学部所属を記入するようにしたが、学部未記入のものが33部あり、改善の必要がある。 ・生徒を対象としたアンケート 質問の表現と回答の表現をよりわかりやすく改善した。 学校生活全般については肯定的評価が80％を超えている。 ・教職員を対象としたアンケート 年々回収率がアップし、今年度100％となった。 教育活動に関するものは、肯定的評価が大半である。 教育条件整備については、十分でないという評価である。 <p>○課題の検討方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討課題の項目については、運営委員会を中心に改善策の依頼を、学部、分掌等へする。 ・学校協議会に結果を報告し、意見交換を行う。 	<p>第1回（6/29）</p> <p>学校経営計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 デイサービスとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスの車の整理を教職員がやってくれている。 ・福祉と教育の連携ツールを作る必要がある。 ・学校単独ではなく、上部機関での協議が必要である。 2 キャリア教育について <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージ表のこのお知らせも必要。具体的な活用が大事。 ・段階を多く踏まないで就労につながらない。 3 安全安心について <ul style="list-style-type: none"> ・事例を学んで、チェック機能を高めていってもらいたい。 4 医ケアについて <ul style="list-style-type: none"> ・学部・学年のつながりが重要。 ・教員が取り組んでいることを学校はPR不足。 5 地域連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルプロジェクトは定着した。 ・地域連携は進んでいる。防災の取り組みも進めていってもらいたい。 6 人材育成について <ul style="list-style-type: none"> ・バディー制度を活用し、専門性の向上につなげてもらいたい。 7 PTA活動について <ul style="list-style-type: none"> ・参加すれば交流もできて、プラスになる。

	<p>第2回（12/7） 学校教育自己診断について</p> <p>（1）堺支援学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の回収率が低い。 ・児童生徒が相談できる相手がいることはありがたい。 ・命の大切さで性教育はどうなっているのか。 <p>（全体計画を出し、各学年で発達段階に応じ、取り組んでいる。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育は、全体で行われているが、教科化での認識が必要。 <p>（2）大手前分校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校学園連絡会等が有効で、連携は進んでいる。 <p>第3回（2/23）</p> <p>（1）平成28年度学校経営計画および学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所合同説明会はいい取り組み。成果を外部に発信してもらいたい。 ・ヒアリハット、インシデントの取り組みが定着してきている。この取り組みも発信してもらいたい。 ・引き続き事務処理の効率化を進めてもらいたい。 ・教員の育成も引き続き進めてもらいたい。 ・地域のイベントに参加していくのは良いことである。支援学校のPRにもなる。 ・地域と連携した防災も進んでいる。 ・ホタル観賞会も認知されてきた。 <p>（2）学校教育自己診断について</p> <p>肯定的評価が低かった項目については、今後も改善に向けた取り組みを進めてもらいたい。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実	<p>(1) 「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の充実と保護者との連携促進。</p> <p>(2) 「環境教育」を教育課程に位置付け、各学部での取り組みを行う。</p> <p>(3) 卒業後の進路について、社会参加できるような進路保障をする。</p>	<p>(1) ①キャリアステージ表の各段階で示された内容を教育内容に具体的につなげていく実践を進める。 ②保護者懇談や参観日で連携を進める。</p> <p>(2) ①校内に設置したビオトープを児童生徒が活用し、環境教育を推進する。 「カワニナ」の飼育、「田辺大根」の栽培の取組も継続する。 ②近隣の清掃活動の支援 地域と清掃区域や回数等の調整を行い、前年度より前進させる。</p> <p>(3) ①PTAと連携し、福祉事業所合同説明会を開催する。また、関係機関との連携を深め、事業所訪問も積極的にを行い、的確で丁寧な情報提供を行い、適切な進路決定ができるようにし、外部との関わりのない生徒を0にする。 ②就労支援コーディネーターの取り組み成果を整理し、職業コース以外で活用できる事例を20%広げる。</p>	<p>(1) ①年度内に具体的事例をまとめる。 ②保護者からの肯定的評価90%</p> <p>(2) ①学部の児童生徒・教員からの肯定的反応80% ②地域からの肯定的評価90%。 清掃活動（月1回実施）</p> <p>(3) ①保護者の肯定的評価80%以上 ②具体的な取り組みをまとめ、次年度につなげる。</p>	<p>(1) ①年間指導計画に入れ、授業展開し、事例をまとめている。(○) ②連携を継続して進めている。肯定的評価94%(○) (2) ①「カワニナ」の飼育、「田辺大根」の栽培は順調だが、ビオトープは試行錯誤の段階。肯定的反応約75%(△) ②毎年連携は進んでいる肯定的評価90%以上(○) (3) ①合同説明会も2回目となり、よりスムーズな運営ができ保護者にも好評であった。進路指導に対する肯定的評価は約80%(○) ②進路指導担当者とコーディネーターが連携し、積極的に実習先の開拓をし、昨年度比50%アップした。(◎)</p>
2 安心・安全な学校と子どもの障がいの状況に応じた支援の方策	<p>(1) 定期的安全点検。PTA、地域と連携した防災対応の取り組みの推進。</p> <p>(2) 子どもの安全確保や人権尊重に基づいた取り組み月間等を設け、教職員への人権意識の涵養に努める。</p> <p>(3) 医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師などの連携を図る。事故防止のための体制づくりの強化を図る。</p> <p>(4) 増加する知的障がいの生徒の安全対策を進める。 (5) 大手前分校における病院との連携促進。 (6) 健康教育の推進</p> <p>(7) 子どもの障がいの状況に応じた授業の工夫をし、自己実現につなげる</p>	<p>(1) ①PTA・教職員の定期的な点検を実施し、できることから改善する。 ②PTAと連携し、備蓄品を計画的に充実させる。BCプランの検証を行い、より実効性のあるものにする。</p> <p>(2) 教職員には6月～7月に月間を設け人権研修の実施と啓発活動を行う。</p> <p>(3) ①新転任者・医療的ケアの未経験者に研修をすぐ役立つ要点から始め計画的に実施する。 ②医師・看護師からの定期的カンファレンスを設定する。事故報告、インシデント、ヒアリハットの報告を受け、原因究明し、事故防止の意識を高める。PTやST等の専門家を招聘して、介助の方法や身体的アプローチの仕方等の技法を学ぶ機会を企画する。</p> <p>(4) 危険な箇所を順次改修する。</p> <p>(5) 「学校・病院との連携協議会」の学期1回開催及び「月一回の連絡会」の開催の継続とより実効性を持たせるため内容の検討を継続する。</p> <p>(6) 保健だよりの充実、食育の推進</p> <p>(7) ①教材の工夫や指導の工夫をし、学期に1回報告会をする。 ②スパイダーシステムの活用を充実させる。</p>	<p>(1) ①月1回の点検を実施 改善プランの作成 ②備蓄品リストを作成し、充足品のチェックをする。 BCプランの見直しと教職員への周知</p> <p>(2) 振り返りシートでの肯定的評価90%</p> <p>(3) ①受講者からの振り返りシートの肯定的評価85% ②医師・看護師・専門家からの受講者への肯定的評価85%</p> <p>(4) 優先順位をつけ、順次改修に取り組む (5) 病院関係者、教員の肯定的評価80%</p> <p>(6) 保健だよりの発行（月1回）</p> <p>(7) ①児童生徒、保護者の肯定的評価85% ②年度内に活用事例をまとめる。</p>	<p>(1) ①運営調整会議で改善プランを検討し、粗大ごみ置き場に児童生徒が立ち入らないようフェンスを設置。校内を巡回し、危険物の除去。(○) ②PTAと連携し不足している物資や賞味期限を考慮して計画的に充足している。 BCプランの修正版を作成し、教職員に周知した。(○) (2) 小グループに分け参加型の研修を行い積極的な意見交換ができた。肯定的評価約93%(○) (3) ①年度初めに実施した。肯定的評価90%(○) ②医師・看護師からの定期的カンファレンスは、非常に役立っている。事故報告、インシデント、ヒアリハットについては、各学期末に総括したものを教職員に周知し、学期初めにも確認し事故防止に努めている。専門家の招聘も教員の専門性向上につながっている。 肯定的評90%(○) (4) 計画的に転落防止柵を設置(○) (5) 継続して開催することで連携が進んでいる。 肯定的評80%(○) (6) 継続した定期発行と必要に応じた発行を行い、健康教育の推進に役立った。(○) (7) ①学部単位で実施 肯定的評価約90%(○) ②活用事例が増え、担当者が事例をまとめ、有効な活用に活かしている(○)</p>

府立堺支援学校（本校・分校）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 支援教育のセンター校と教員の専門性向上の取組</p>	<p>(1) 校内研修や授業研究・実践の促進</p> <p>(2) 教員の専門性向上に向けての支援</p> <p>(3) 障がい種別に応じた外部人材の招聘</p> <p>(4) 校外支援と校内支援の展開の充実</p> <p>(5) 福祉等関係機関や放課後デイサービス機関との連携の強化</p> <p>(6) 道徳教育の取り組みを進める</p>	<p>(1) 研修は研究部が各部署からの企画内容をコーディネートし、重複部分をなくし重点目標に沿って系統だったものとする。 研究授業は、見学方法等の改善を行い、より多くの効果的な意見交換ができる体制にする。</p> <p>(2) ICT 活用実践のまとめを具体的に効果的活用ができるようにする。教材教具の好事例の発表や他校での先進的な取り組みの視察し、本校での取り組みとして活用できるものを探る。</p> <p>(3) 大学や医療専門職など、外部のスーパーバイザーを招聘して適切な指導援助を受ける。①大学の研究者 10 回程度、②医師、医療関係者 5 回程度、③園芸専門員他 10 回程度、学生支援員 随時)</p> <p>(4) リーディングスタッフ、コーディネーターと自立活動専任スタッフを中心に校内・校外支援の組織的な動きを支援する。 自活専任が行う校内支援を教員に具体的に示し、専門性向上につなげる。</p> <p>(5) 保護者と連携し、福祉関連機関に移行支援計画を確実に引き継げるようにする。増加する放課後デイサービス機関との連携を進める。</p> <p>(6) 作成した全体計画を各学部で具体的に進める。</p>	<p>(1) 参加者からの振り返りシートによる肯定的評価 85%以上 見学方法の具体的な改善が行われる。</p> <p>(2) 活用方法等の研修を学期に 1 回実施 先進校の視察実施</p> <p>(3) 外部人材による研修者への評価、受講者の満足度 85%以上</p> <p>(4) 各市教育委員会及び学校園における本校のリーディングスタッフ・コーディネーターの支援に対する肯定的評価 90%以上 月 1 回の管理職を含めた自活専任会議の実施。教員の満足度 80%以上</p> <p>(5) 福祉関連機関放課後デイサービス機関からの本校との連携に対する肯定的評価 80%</p> <p>(6) 具体的事例をまとめる。</p>	<p>(1) 研究部がコーディネートし、2 分掌共催の研修も実施した。さらに重点目標に沿った系統だった研修を進める必要がある。肯定的評価 85% (○)</p> <p>(2) 学部単位で事例の発表を行い、効果的活用につなげた。 先進校の視察を実施し、分掌で活用方法の検討をしている。(○)</p> <p>(3) ①②とも計画通りに実施し、教員の専門性向上につなげた。肯定的評価 90% (○)</p> <p>(4) リーディングスタッフを中心に郊外支援に努めた。肯定的評価 90%以上 自活専任の校内支援については、管理職を含めた自活専任会議で効果や方向性等を確認し進めた。 教員の満足度 85% (○)</p> <p>(5) 移行支援計画の引き継ぎについては関係機関とも連携し進めている。 連絡窓口を決め、連携のあり方の検討も行っている。 肯定的評価 80% (○)</p> <p>(6) 全体計画を教員に周知し、各部で取り組みを進めまとめた。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 機能的な組織づくりの推進</p>	<p>(1) 校内組織の機能的運営</p> <p>(2) 人材育成</p>	<p>(1) ①各分掌で仕事内容を整理し、引継ぎがスムーズにいくようにする。また、分掌間の連携を進める。 ②首席会、運営調整会議、運営委員会、職員会議といった流れで、課題解決や将来構想に向けての検討を進める。</p> <p>(2) ①初任者育成のバディー制度の改善点の検討をし、より効果的に進める。 ②OJTを推進する。 得意分野のアンケート活用事例の増加</p>	<p>(1) ①仕事内容のデータベース化を進める。連携した取組みを増加（前年度比 1.2 倍） ②定期的実施し、課題解決等の確認をする</p> <p>(2) ①受講者からの振り返りシートの肯定的評価 85% ②前年度比 1.5 倍</p>	<p>(1) ①各分掌でデータベース化している。 分掌間の連携についても担当する仕事内容の見直しも進めながら行っており、連携した取組みは前年度比 1.5 倍 (○) ②週 1 回定期的に行い、学校運営の中心となっている。(○)</p> <p>(2) ①バディー制度の意義を説明し、双方の意識を高め実施した。研修の振り返りや助言も得られ双方に効果があった。肯定的評価 90% (◎) ②登録は増加したが、活用事例の増加は見られなかった (△)</p>